

報告第14号

令和4年度読谷村教育委員会事務点検・評価の報告について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、令和4年度読谷村教育委員会事務点検・評価を別紙のとおり報告します。

令和5年9月12日提出

読谷村長 石 嶺 傳 實

令和4年度

読谷村教育委員会事務点検・評価報告書

令和5年9月

読谷村教育委員会

は じ め に

本村では、村民主体、地域ぐるみ、風土調和の三原則を基本とする地域民主主義をむらづくりの基本とし、むらづくりの基本目標を「ゆたさある風水 優る肝心 咲き誇る文化ど 想い合ち(ゆたさあるふんし まさるちむぐくる さちふくるはなどう うむいあわち)」と設定して5つの基本施策に基づきむらづくりに取り組んでおります。

このうち教育分野におけるむらづくりの基本施策として「ちむ清らさあるひとの学び 育ち～夢を育み生涯輝けるひとづくり～」を掲げ、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる子ども子育てを推進するとともに、「生きる力」を育むための教育環境の充実や幅広い世代に向けた生涯学習の取組推進、多様な地域文化の継承・発展、スポーツを通した心身の鍛錬と健康の保持増進等、子どもから大人まで、夢を育み生涯輝ける人づくりを目指しております。

この教育施策に掲げる目標を実現していくために読谷村教育振興基本計画において、基本目標(1)子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実。基本目標(2)生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展。基本目標(3)地域との連携による教育環境づくりの3つの基本目標を設定し、各種の事務事業に取り組んでおります。

教育委員会事務点検評価報告書につきましては、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検と評価を行い、その結果に関する報告書を作成することが法律によって義務付けられており、その作成にあたっては、令和4年度に実施した事務事業について、各担当課での点検を行い、また報告について客観性を確保するという観点から教育に関しての学識経験を有する者の知見を図るため、学識経験者からのご意見をいただき、点検・評価報告書をまとめております。

本報告書が、学校現場はもとより各家庭・地域社会において、有効に活用されるとともに、心身ともに健全な読谷村民を育成する一助になることを期待いたします。

令和5年9月
読谷村教育委員会
教育長 知花 優

目 次

はじめに	1
● 事務点検・評価制度	3
● 施策の体系	5
1 読谷村ゆたさむらビジョン（教育行政関係抜粋）	5
2 読谷村教育振興基本計画	6
● 点検評価結果	7
令和4年度事務点検評価事業一覧	8
1 子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	10
1) 確かな学力の向上	10
3) 健やかな体の育成	20
4) 多様なニーズに対応した教育支援の充実	23
2 生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	27
1) 生涯学習の充実	27
2) 生涯スポーツの推進	36
3) 地域文化の継承・創造・発展	42
3 地域との連携による教育環境づくり	54
1) 健全な青少年の育成	54
2) 地域とともにある信頼される学校づくりの推進	59
3) 新しい時代を展望した教育行政の充実	62

●事務点検・評価制度

1 趣旨

全ての教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに公表することとされています。

読谷村教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たすために、令和 4 年度における村教育委員会の事務管理及び執行状況について、学識経験者のご意見をいただき、事務事業の点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

2 点検・評価の対象

点検及び評価の対象は、読谷村ゆたさむらビジョンにおける教育施策に関する事業及び読谷村教育振興基本計画に掲げる施策を実施するための事業から重点課題事項として位置づけられた事業としています。

3 点検・評価の実施方法

（１）点検及び評価にあたっては、事業の進捗状況等を明らかにし、自己評価を行うとともに、課題等を分析し、今後の対応策を示しております。

（２）自己評価については、その成果について下記の４段階で評価しました。

レベル	評価内容
A	計画を上回る成果があった。
B	計画どおりの成果があった。
C	計画どおりに実施したが、計画どおりの成果には至らなかった。
D	計画どおりに実施できなかった。

（３）点検・評価の客観性を確保するために、教育に関し学識経験を有する外部の方々（学識経験者）の様々なご意見、ご助言をいただきました。ご意見をいただいた方々は、次のとおりです。

学識経験者	経歴等
松 田 平 次	前村教育長、元小学校校長
與 儀 優	前村文化センター館長、元村職員

4 点検・評価結果の構成

(1) 施策名

読谷村ゆたさむらビジョンにおける教育行政関連施策及び読谷村教育振興基本計画3施策に係る47事業ごとに点検評価を行っています。

(2) 事業概要

各事業の概要及び目標を掲げています。

(3) 令和4年度取組内容

各事業の目標達成に向けて、令和4年度に取り組む予定とした内容（計画）を記載しています。

(4) 令和4年度取組状況

各事業の令和4年度取組状況について、その成果を記載しています。

(5) 自己評価

令和4年度の実施状況（計画から成果）の状況について、分析を行い、自己評価した内容を記載しています。

(6) 課題

令和4年度の実施状況を踏まえ、今後の取り組みを進める上での課題を記載しています。

(7) 次年度以降の取組内容（課題対応）

令和4年度実施に基づく課題を踏まえ、課題解決を行うための今後の対応策について記載をしています。

(8) 学識経験者からの意見

学識経験者の方々から頂いたご意見等について記載しています。

●施策の体系

1 読谷村ゆたさむらビジョン（教育行政関係抜粋）

基本目標 ゆたさある風水^{フンシ} 優^{マサ}る肝心^{サチ} 咲き誇る文化^{ハナドゥ}ど^{ウム} 想^{アワ}い合^{アワ}ち

基本施策	施策の方針	施策の展開
2 （夢を育み生涯輝けるひとづくり） ちむ清 ^{ヂユ} らさあるひとの学 ^{ヒトウヌマナ} び育 ^{スダ} ち	1) 子ども子育ての推進	(1) 保育・幼児教育環境と学童保育の充実 (2) 子ども子育て地域支援ネットワークの構築 (3) 笑顔あふれる家庭環境づくり
	2) 子どもの教育の充実	(1) 「生きる力」を育む教育環境・学習活動の推進 (2) 安全・安心な教育環境の充実 (3) 地域と学校が連携した学び場づくりの推進
	3) 地域文化の創造発展	(1) 地域文化の継承・発展 (2) 読谷の歴史・文化・芸術・自然の発信
	4) 生涯学習の充実	(1) 誰でも学べる環境づくりの推進 (2) 地域を担う人材育成の推進
	5) スポーツの推進	(1) スポーツ環境の充実 (2) スポーツに触れる機会の創出

2 読谷村教育振興基本計画

基本理念 ^{デュ}ちむ ^{ヒト ユ ス マナ}清らさあるひとの学び育ち

～ 一人ひとりが夢を育み、可能性を広げ、生涯輝けるひとづくり ～

基本目標	基本施策	具体施策
1 子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	1 確かな学力の向上	①幼児教育の充実 ②幼児期からの切れ目のない教育の推進 ③基礎学力の定着・応用力の育成に向けた指導方法の改善 ④国際化・情報化等の現代的な課題に対応した教育の推進
	2 豊かな心を培う教育の推進	①平和を希求し、互いを思いやる心の育成 ②自己肯定感の育成 ③いじめの予防対策・対応の充実
	3 健やかな体の育成	①運動に親しむ環境づくりと体力の向上 ②望ましい食習慣・生活習慣の確立
	4 多様なニーズに対応した教育支援の充実	①特別支援教育の充実 ②帰国・外国籍児童・生徒への教育支援 ③子どもの貧困対策の推進 ④キャリア教育の推進
2 生涯を通じた学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	1 生涯学習の充実	①生涯学習の推進体制の充実 ②村民の学習ニーズに応える学習機会と活動支援の充実 ③活動拠点の充実・活用促進 ④読書活動の推進
	2 生涯スポーツの推進	①健康づくりと生涯スポーツの普及推進 ②スポーツ指導者・スポーツ団体の育成 ③スポーツ環境の充実
	3 地域文化の継承・創造・発展	①文化財の保存・活用 ②伝統芸能等の保存・継承 ③郷土に関する資料の収集・保存・活用 ④郷土文化や芸術に触れる場の充実
3 地域との連携による教育環境づくり	1 健全な青少年の育成	①各種体験活動、リーダー育成の充実 ②教育相談・不登校対応の充実 ③読谷村青少年健全育成連絡協議会の充実
	2 地域とともにある信頼される学校づくりの推進	①学校・家庭・地域の連携強化 ②学校施設・設備の充実 ③教職員の資質・能力の向上 ④危機管理対策の充実による学校安全の推進
	3 新しい時代を展望した教育行政の充実	①家庭・地域の教育力の向上 ②教育委員会の充実

●点検・評価結果

令和4年度教育委員会事務点検評価事業一覧表

基本目標	基本施策	事務事業名称	評価	頁
1 子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	確かな学力の向上	幼稚園教育支援員配置事業	B	10
		預かり保育事業	B	11
		学力向上推進事業	B	12
		小学校学習支援員配置事業	B	13
		小学校教育振興事務運営事業	B	14
		中学校学習支援員配置事業	B	15
		中学校教育振興事務運営事業	B	16
		小中学校 ICT 環境整備事業	B	17
		校内自立支援室事業	C	18
		中学生海外ホームステイ派遣事業	D	19
	健やかな体の育成	給食調理場管理運営事業	B	20
		給食調理場運営事業（読谷・読谷第二・古堅）	B	21
		給食調理場建設・読谷第二給食調理場新增改築事業	B	22
	多様なニーズに対応した教育支援の充実	小中学校就学援助事業	B	23
		小中学校特別支援補助事業	B	24
		特別支援教育支援員配置事業	B	25
		特別支援教育推進事業	B	26
2 生涯を通じた学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実	生涯学習事務運営事業	B	27
		社会教育関係指導者育成事業	B	28
		まなびフェスタ事業	B	29
		ふれあい交流館自主事業	B	30
		文化センター施設管理運営事業	B	31
		鳳ホール事務運営事業	B	32
		大木地区学習等供用施設改修事業	B	33
		図書館運営事業	B	34
	生涯スポーツの推進	各種スポーツ大会運営事業	B	36
		後援団体育成事業	B	37
		体育施設運営事業	B	38
		屋内運動場整備事業	B	40
		陸上競技場北側植栽整備事業	B	41
	地域文化の継承・創造・発展	返還軍用地埋蔵文化財発掘調査事業	B	42
		博物館管理運営事業	B	43
		子ども文化育成事業	B	44
		沖縄語保存継承事業	A	45
		鳳ホール自主事業	B	46

令和4年度教育委員会事務点検評価事業一覧表（前頁からの続き）

基本目標	基本施策	事務事業名称	評価	頁
2 生涯を通じた学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展	歴史資料整理活用事業	B	48
		博物館展示事業	B	49
		博物館教育普及事業	B	51
		ユンタンザミュージアム南側駐車場整備事業	C	53
3 地域との連携による教育環境づくり	健全な青少年の育成	地域学校協働活動推進事業	B	54
		放課後子ども教室推進事業	B	55
		村子ども会交流事業	C	56
		青少年センター事務運営事業	B	57
	地域とともにある信頼される学校づくりの推進	小学校校舎等維持補修事業	B	59
		古堅南小学校校舎新增改築事業	B	60
		読谷中学校校舎新增改築事業	B	61
	新しい時代を展望した教育行政の充実	家庭教育相談支援事業	B	62

1 子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実

1) 確かな学力の向上

1	事業名	幼稚園教育支援員配置事業	決算書 P. 311
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 12,619,945 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子ども子育ての推進
	教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	確かな学力の向上

事業概要	幼稚園において、学級担任のサポート、休みの代替など日常保育のきめ細やかな教育支援を行うために幼稚園教育支援員を配置する。		
令和４年度 取組内容 (計画)	学級副担任としての役割と担任の年休、病休、研修等で不在の時の代替を担う。早朝、午後の預かり保育へのつなぎをする役割を担い園全体の支援、補助を行うために各園に１名の配置を行う。		
令和４年度 取組状況 (成果)	各園に幼稚園教育支援員を１名ずつ配置ができた。 学級担任の補助的役割を担うことで、担任と連携した環境整備を行い、きめ細かな園児への対応や保護者支援に繋がった。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		計画通りに各園に幼稚園教育支援員を配置し、きめ細やかな園児への対応や保護者支援を行うことができた。	
課題	教育支援員の安定的な人材確保が必要である。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	副担任業務を担う幼稚園教育支援員は、園児とより多くの時間を共有することも重要である為、ICT機器を利用した職員の業務軽減を図ることを検討する。		

学識経験者からの意見	各園に1名ずつの教育支援員を配置できたことと、教育支援員が学級担任と連携し、きめ細かな教育支援の実践に繋がったことを評価する。そのことは、子どもの成長及び学びの充実に寄与したと思う。 本事業は、幼稚園教育の充実と保護者の期待にも応えることのできる手段である。今後とも本事業を継続し、益々の充実に期待する。
------------	---

2	事業名	預かり保育事業	決算書 P. 271
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 29,626,826 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子ども子育ての推進
	教育振興計画基本 目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広 げる「学び」の充実	確かな学力の向上

事業概要	幼稚園教育課程に係る教育時間の終了後や長期休業期間中に在園する幼児を対象に保護者の要請に応じて預かり保育を実施し、幼稚園を利用する保護者の子育てを支援する。		
令和４年度 取組内容 (計画)	就労や介護、通院などさまざまな理由により、午前の幼稚園教育課程終了後に保育をする事ができない保護者の負担を軽減するため午後の保育を行う。		
令和４年度 取組状況 (成果)	預かり保育利用人数（園児数に占める割合 令和４年５月） 合計 276 名（88％）。(内訳) 渡慶次幼稚園 42 名（91％）、読谷幼稚園 87 名（95％）、喜名幼稚園 42 名（93％）、古堅幼稚園 43 名（70％）、古堅南幼稚園 62 名（93％）。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		幼稚園５園に預かり保育担当職員を合計 13 名配置（５歳児対応 11 名、４歳児対応 2 名）ができた。預かり保育を希望する保護者全てに対応することができ、子育て支援及び保護者の就労支援を行った。	
課題	預かり保育士及び年休代替の日々臨時保育士の確保が難しい。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	安全安心な環境で園児の受け入れ体制づくりを行い、預かり保育の充実を図るため、担当保育士、日々のパートタイム保育士の確保を行う。その為に公式 LINE やハローワーク、広報などを利用した人材確保に努める。		

学識経験者からの意見	預かり保育利用者の利用率が高い園は、95%、一番低い園でも 70%と、極めて利用のニーズが高い。そのことから子育て支援及び保護者の就労支援が必要である。事業として、預かり保育を希望する保護者全てに対応できたことは、高く評価できる。また、預かり保育担当職員を合計で 13 名も配置できたことも評価できる。保育士の人材確保は、今後もなお一層厳しくなるが、努力を願う。
------------	---

3	事業名	学力向上推進事業	決算書 P. 277
担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費	3,767,830 円
総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実	
教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	確かな学力の向上	

事業概要	学校、家庭、地域の三者が互いに連携し、県の学力向上主要施策「沖縄県学力向上推進 5 か年プラン・プロジェクトⅡ～学びの質を高める授業改善・学校改善～」に示された学力向上取組みの重点を日常的に推進することにより、幼児児童生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ「生きる力」を育む。		
令和 4 年度 取 組 内 容 (計 画)	学力向上推進計画に沿った内容の事業計画を各幼稚園小中学校が立案し、その事業執行のための補助金を読谷村学力向上推進協議会に交付する。また、I C T 研究指定校の設定を行う。		
令和 4 年度 取 組 状 況 (成 果)	・各小中学校が学力向上の目的に沿った実践を実施し、児童生徒の基礎学力の向上につなげることができた。 ・各学校において創意工夫をこらし、児童生徒にとって原動力となるような講師による講演会等を継続して実施することでキャリア教育の充実につなげることができた。 ・古堅小学校を I C T 研究指定校に指定し、I C T 機器を効果的に活用することにより、自らの考えを伝え、他者の考えを理解し問題を解決しようとする児童が増えた。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		・公開授業、学力向上推進実践報告会（紙面）を行う事で、各学校への研究内容の周知を行うことができた。 ・校内研修等において、教員の I C T 活用の技術が高まった。 ・授業において、児童の I C T 活用の技術が高まった。	
課 題		・ I C T 機器を活用した児童生徒の個別最適な学習の工夫。 ・授業と連動した自主学習の取り組みが課題である。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)		・持ち帰りを想定した I C T 機器の活用。 ・ I C T 支援員の積極的な活用。	

学識経験者からの意見	本村の学力向上は、村学力向上推進協議会、各学校・家庭・地域・行政が、各々の役割を果たし成果を上げている。中でも、各学校が積極的に児童生徒の学力向上に資するため、計画的に日々実践をしていることが心強い。また、教師の指導技術向上のために、I C T 研究校に古堅小学校を指定し、教師の指導技術向上を図っている。この研究成果が、村全体に広がることを期待する。
------------	--

4	事業名	小学校学習支援員配置事業	決算書 P. 293
担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費	11,186,374 円
総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実	
教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	確かな学力の向上	

事業概要	児童の基礎基本の定着と学力の向上を図る事や個々の児童に応じたきめ細やかな学習支援を行うため各小学校に学習支援員を配置する。	
令和4年度 取組内容 (計画)	全学年の児童を対象に小学校5校へ学習支援員を1名ずつ配置する。各学校においての学習支援計画に基づき学習支援員を配置し、児童の学習意欲の向上や基礎学力の定着を図る。	
令和4年度 取組状況 (成果)	計画通り全学年の児童を対象に小学校5校へ学習支援員を1名ずつ配置することができた。 令和4年度学びのたしかめ。 ・4学年 平均正答率 50%（県：49.6%、中頭 49%） ・5学年 平均正答率 50.3%（県：51.6%、中頭 51.6%） 令和4年度県到達度調査。 ・6学年 平均正答率 60.3%（県：57.5%、中頭：57.2%）	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	・4年生と6年生においては県、中頭の平均正答率を上回ることができた。 ・5年生においては県、中頭より下回ったが問題数でいうと0.2問の差となり、ほぼ同数である。	
課題	・対象児童生徒の学習内容の理解や学習意欲の向上については、継続した支援が必要である。 ・学習支援員の安定的な人材確保が必要である。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	・継続して小学校5校へ各1名ずつ学習支援員を配置し、各学校において課題が見られる学年への配置や個に応じた指導の工夫を図る。 ・学習支援員の役割や指導の方法等を4月の研修で行う。	

学識経験者からの意見	児童が学習につまずき始めるのは、学習内容に抽象性が含まれてくる時と言われている。そこで、各学校に1名ずつ学習支援員を配置し、個々へ丁寧に学習支援をしていくことのできる本事業は、児童の学習内容の理解や学習意欲に大いに役立っていると評価できる。その証に、本県の「学びの確かめ」のテストの正解率は上々である。今後とも本事業を継続し、なお一層充実を図るべきである。
------------	--

5	事業名	小学校教育振興事務運営事業	決算書 P. 293
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 8,952,020 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広 げる「学び」の充実	確かな学力の向上

事業概要	各小学校と連携し、小学校 5 校の電算機器借り上げ、教材用備品購入、県外大会派遣などに係る事務運営を行い、各小学校の教育振興を図る。		
令和 4 年度 取 組 内 容 (計 画)	校務用パソコンのリース管理。教材備品、楽器備品の購入、整備。 県外大会派遣費補助金に係る事務。		
令和 4 年度 取 組 状 況 (成 果)	教材備品購入 35 品目（百葉箱、小型逆上がり補助版等を購入） 楽器備品購入 3 品目 県外大会派遣費補助金交付 1 件		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		必要な教材備品、楽器備品を計画どおり整備することができた。 理科教材備品については、補助事業を活用し、観察・実験を重視した重点設備を整備することができた。	
課 題	学級新設に伴う学習環境の計画的配備。 計画的な教材備品購入のための各小学校との連携。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	各小学校からの教材備品購入計画書を基に、補助事業を活用しながら、継続して学習環境の整備に努める。		

学識経験 者からの 意見	必要な教材備品、楽器備品を計画どおりに整備することができたことは評価す る。学校で使用する教材用備品等は、毎年進歩している。中でもデジタル関係 の進歩は、目を見張るものがあり、備品整備には留意したい部分である。 今後とも学校と連携を密にし、計画的に本事業を行う事を希望する。また、県 外大会派遣費補助金交付が 1 件とは、さびしい。今後の盛り返しを期待する。
--------------------	---

6	事業名	中学校学習支援員配置事業	決算書 P. 305
担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費	4,973,272 円
総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実	
教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	確かな学力の向上	

事業概要	学習内容の理解・習得に個人差があらわれる数学の教科を学習する中学 1 年生を主な対象として、生徒の基礎基本の定着、学力の向上を図る事や個々の生徒のきめ細かな学習支援を行うため、中学校 2 校に 1 名ずつ学習支援員を配置する。		
令和 4 年度 取 組 内 容 (計 画)	中学校 2 校へ学習支援員を 1 名ずつ配置する。		
令和 4 年度 取 組 状 況 (成 果)	・ 計画通り中学校 2 校へ学習支援員を 1 名ずつ配置することができた。 ・ 個別の指導を行う事で学習の定着と学習意欲の向上につなげることができた。 ・ R4 年度沖縄県学力到達度調査結果。 中 1 数学平均正答率 43%（県平均 44. 4% 中頭 42. 7%）		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		県平均正答率には僅かに足りなかったが、中頭管内の平均を上回ることができた。	
課 題	対象生徒の学習内容の理解や学習意欲の向上に向けて、学習支援員の継続した配置が必要である。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	・ 継続して中学校 2 校へ各 1 名ずつ学習支援員を配置し、中学 1 年生を中心に個に応じた指導の工夫を図る。 ・ 学習支援員の役割や指導の方法等を 4 月の研修で行う。		

学識経験者からの意見	数学は、個人差が顕著に表れる教科である。特に中学 1 年の内容は、抽象的な思考力を求める学習教材も多く、足踏みする生徒が見られる。そのために、個々の生徒にきめ細かな学習支援を行うことで、その壁を乗り越えて、学習意欲や学力の向上へと繋げていくことが肝要である。その意味では、学習支援員を 1 名ずつ配置できたことを評価する。各中学校で学習支援員を学力向上のために有効活用することを期待する。
------------	--

7	事業名	中学校教育振興事務運営事業	決算書 P. 307
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 13,860,209 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広 げる「学び」の充実	確かな学力の向上

事業概要	各中学校と連携し、中学校 2 校の電算機器借り上げ、教材用備品購入、県外大会派遣などに係る事務運営を行い、各中学校の教育振興を図る。		
令和 4 年度 取 組 内 容 (計 画)	校務用パソコンのリース管理。 教材備品、楽器備品の購入整備。 県外大会派遣費補助金に係る事務。		
令和 4 年度 取 組 状 況 (成 果)	教材備品購入 20 品目（人体解剖模型、理科実験準備ワゴン等を購入）。 楽器備品購入 8 品目。 県外大会派遣費補助金交付 11 件。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		県外大会派遣費補助金交付を適切に行うことができた。 必要な教材備品、楽器備品を計画どおり整備することができた。	
課 題	学級新設に伴う学習環境の計画的整備。 計画的な教材備品購入のための各中学校との連携。 迅速な県外大会派遣費補助金交付のための各中学校との連携。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	各中学校と連携を図り、県外大会派遣費補助金の迅速な交付に努める。 各中学校からの教材備品購入計画書を基に、補助事業を活用しながら、継続して学習環境の整備に努める。		

学識経験 者からの 意見	学校で使われる教材は、子どもたちの教育効果を高め、学習理解を助ける上で極めて重要であり、その充実は不可欠である。 本年度は、教材備品購入 20 品目、楽器備品購入 8 品目、さらには、県外派遣費補助金交付 11 件と事業を完了していることを評価する。購入した備品が各学校で有効活用されることを期待する。なお、コロナ禍の中でも県外大会派遣費補助金が、11 件も交付されたことを高く評価する。
--------------------	--

8	事業名	小中学校 I C T 環境整備事業	決算書 P. 293、P. 309
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 3,256,000 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広 げる「学び」の充実	確かな学力の向上

事業概要	「わかりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成」を図るため、コンピューター関連の機器を教室や授業に取り入れて活用できる教育環境を整備する。		
令和４年度 取組内容 (計画)	学級新設等が生じた場合に、必要なＩＣＴ関連機器の購入を行い、教育環境を整備する。		
令和４年度 取組状況 (成果)	学級新設に伴うＩＣＴ関連機器の購入 小学校１校（液晶ディスプレイ、画面転送装置等） 中学校１校（液晶ディスプレイ、画面転送装置等）		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		次年度学級新設が見込まれる小学校及び中学校へＩＣＴ関連機器の購入を行い、教育環境の整備を行うことができた。	
課題	学級新設に伴う学習環境の計画的配備。 計画的な教材備品購入のための各小中学校との連携。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	各小中学校と連携しながら、継続して教育環境の整備に努める。		

学識経験者からの 意見	次年度学級の新設が見込まれる小学校及び中学校の I C T 関連機器等の購入を行い、情報教育の環境を他の学級と同じように整備したことを評価する。どの学級も同じ教育環境に揃えてあげることは、大事である。
----------------	--

9	事業名	校内自立支援室事業	決算書 P. 281
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 1,583,876 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広 げる「学び」の充実	確かな学力の向上

事業概要	不登校児童生徒及び登校はできるが教室に入れない児童生徒等に対し、個々の状況に応じた学習支援を行う等、多様な学習の機会を確保し、児童生徒の社会的自立を促す。		
令和４年度 取組内容 (計画)	中学校１校へ校内自立支援員を配置し、学級担任等と連携を行いながら、校内自立支援室を利用する生徒個々の状況に応じた学習支援等を行い、多様な学習の機会を確保する。		
令和４年度 取組状況 (成果)	校内自立支援員１名配置、支援人数（延べ３,５７２名）		
自己評価	C	計画どおり実施したが、計画どおりの成果までには至らなかった。	
		当初４月から事業実施を予定していたが、人材の確保ができず、年度途中での任用となり、計画どおりに配置することができず成果までには至らなかった。	
課題	本事業は、２年間の事業であるため、本事業実施終了後における対象生徒への支援について、学校と連携しながら検討が必要である。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	本事業実施終了後における学校との連携。		

学識経験者からの意見	本事業は、不登校児童生徒及び教室で授業が受けられない児童生徒等に対する教育支援事業であるが、成果に至らなかったと自己評価している。しかし、支援した児童生徒の延べ人数は、3,572名にも及び、その点は大いに評価できる。今後も学校と連携を密にしながら継続した教育支援をお願いしたい。
------------	---

10	事業名	中学生海外ホームステイ派遣事業	決算書 記載なし
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 0 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広 げる「学び」の充実	確かな学力の向上

事業概要	創造性、国際性に富み社会に貢献する人材の育成を図るため、本村在住の中学生 12 名を英語圏へ派遣する。		
令和 4 年度 取 組 内 容 (計 画)	村内在住の中学生に希望者を募り、12 名を上限として対象者を選考する。 選考された者に対して、海外ホームステイ費用の補助を行う。 帰国後は、報告会の実施とレポート提出を求める。		
令和 4 年度 取 組 状 況 (成 果)	新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、令和 4 年度は実施を取りやめた。		
自己評価	D	計画どおりに実施できなかった。	
		新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響を受け、海外渡航が不可能な状況となったため、令和 4 年度は事業実施を見送った。	
課 題	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえた事業実施の判断と代替案の検討。 感染症終息後の再開時における周知。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	より多くの生徒に海外での生活や経験の機会を与えることができるよう、 選考基準の見直しの検討を行う。		

学識経験 者からの 意見	本事業は、創造性、国際性に富み、社会に貢献できる人材の育成を図るため、本村在住の中学生 12 名を英語圏へ派遣することである。現地の文化、生活を肌で体感することで、参加した中学生を大きく成長させることのできる事業である。 今年度もコロナ禍の影響で事業の実施ができなかったことは、残念で心が痛い。有能な人材を育成するためには、欠かせない事業であることから次年度の実施を願う。
--------------------	--

3) 健やかな体の育成

11	事業名	給食調理場管理運営事業	決算書 P. 359
	担当部署	給食調理場 給食係	事業費 3,464,611 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	健やかな体の育成

事業概要	学校給食法及び読谷村立学校給食調理場運営方針に基づく学校給食運営をめざすため、適正かつ円滑な村立給食調理場の管理運営を行う。また、学校事務が担っている給食会計事務を総括し、適正かつ円滑な給食会計の管理運営を行う。
令和4年度 取組内容 (計画)	安全・安心な学校給食の提供や食育の推進を図るため各給食調理場や給食会計事務を総括し、適正かつ円滑な管理運営を行う。 新型コロナウイルス感染症に罹患した者及び濃厚接触者となり、村内小中学校を出席停止となった児童・生徒の保護者へ、その間の給食費を助成する事で経済的負担軽減を図る。
和4年度 取組状況 (成果)	令和4年度給食費徴収率：99.77% 令和4年度給食費助成実績：538件、958,220円 令和3年度3学期分（令和4年度予備費対応分）：1,016件、1,256,850円
自己評価	B 計画どおりの成果があった。 保護者のご理解と学校事務担当者の努力により徴収率 99.77%とすることができた。給食費助成については先生方と学校事務担当者の協力があり、合計 1,554 件の助成を行うことができた。
課題	給食費の徴収率 100%が達成できる方法の構築。 私会計運用中の給食会計について、今後の対応検討（監査の負担減少）。
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	給食費の未払いの方へ声掛けや文書等で納付呼びかけを行う。 学校事務と連携を行い、給食費徴収率 100%を目指す。

学識経験者からの意見	学校給食の運営については、保護者や各学校、学校給食調理場職員の理解と協力のお陰で、適正かつ円滑な給食調理場の管理運営ができていることを評価する。中でも給食費の納付率が高いことは、学校給食への保護者からの「信頼と期待」の証と捉えたい。また、給食費助成についても、必要なところに届いていることは、ありがたいことである。
------------	---

12	事業名	給食調理場運営事業(読谷・読谷第二・古堅)	決算書 P. 361～P. 365
	担当部署	給食調理場 給食係	事業費 106,869,097 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	健やかな体の育成

事業概要	「子ども達の豊かな心と丈夫な体をつくる学校給食」を基本に、食の安全・安心、栄養バランスのとれた美味しい給食供給、児童生徒の健康、食育及び村民の食生活改善に寄与する学校給食運営をめざす。	
令和4年度 取組内容 (計画)	7 小中学校の児童生徒へ、学校給食衛生管理基準等に基づき衛生管理を徹底し、栄養バランスの取れた美味しく、安全・安心な給食の提供を行う。食育を推進するために給食提供の仕方の工夫や栄養士による給食指導を実施する。	
令和4年度 取組状況 (成果)	栄養士・調理員による衛生管理を徹底し、村内小中学校の児童生徒へ給食を提供し、児童生徒が給食を楽しく摂れるように食育の推進を行った。（絵本の給食・スポーツキャンプ応援給食・食育の日・イモの日等）また、古堅南小学校6年生が考案した給食メニューの提供や、中学3年生を対象としたバイキング給食を実施した。 栄養士による給食指導・特別授業を行うことで、食への関心を持ってもらえるように取組みを行った。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	令和4年度にて給食が原因となる食中毒や危険異物の混入は無く、安全・安心な給食の提供を行えた。更に献立の工夫を行うことで、食への興味と関心を持ち、食育の推進を図ることができた。	
課題	読谷第二給食調理場における施設等修繕への計画的取組み。 給食の残量を少なくする取組み。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	調理器具等については、保守点検作業委託の検討を行い、大規模な故障の未然発生に努める。 食育の日は年間を通して同じメニューの提供を行い子ども達の苦手な食材も食べ慣れてもらえるよう実施する。	

学識経験者からの意見	「絵本の給食・スポーツキャンプ応援給食・食育の日・イモの日」など様々な食育事業を取り入れた学校給食の実践は素晴らしい。さらに、児童生徒の提案や給食の思い出づくり等、学校給食を楽しんでいる児童生徒の笑顔が見えてくるようである。何よりも学校給食が、食中毒や危険物混入が無く、安全・安心な給食の提供ができたことは当たり前のことではあるが一番の成果であると賞賛する。
------------	---

13	事業名	給食調理場建設事業 読谷第二給食調理場新增改築事業		決算書 P. 367、P. 369
担当部署		給食調理場 給食係	事業費	540,916,854 円
総合計画施策名		ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実	
教育振興計画基本 目標及び施策名		子どもの成長を促し可能性を広 げる「学び」の充実	健やかな体の育成	

事業概要	現在稼働が休止している読谷調理場を令和４年度２学期にて、稼働を行えるように改修工事等を行う。 読谷第二給食調理場については、施設提供可能食数の対応が可能になるよう工事を行う。		
令和４年度 取組内容 (計画)	読谷給食調理場の改修工事（建築・電気・設備・厨房機器）、給食配送車両の新規購入（２台）、読谷第二給食調理場に新たな給食配送口（ドックシェルター）の設置を行った。		
令和４年度 取組状況 (成果)	令和４年度２学期より、読谷給食調理場は中学校２校へ給食提供を開始、読谷第二給食調理場は小学校５校への給食提供を開始することができた。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		計画どおり読谷調理場の稼働と調理場再編を実施することができた。	
課題	施設稼働後における想定外に発生する不具合等への対応。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	原則は運用で不具合等の解決を行っていくが、運用で解決できないもの（備品の不足や施設の不具合等）については、予算要求等を行い、改善を図る。		

学識経験者からの意見	稼働が休止していた読谷給食調理場は、令和2年度より改修工事を進め、工事を終えた。そこで令和4年度の2学期より給食の提供を開始できた。しばらくの間、休止していた読谷給食調理場が稼働できたことを喜びたい。今後は、読谷給食調理場の安全な稼働と美味しい給食の提供に期待したい。
------------	--

4) 多様なニーズに対応した教育支援の充実

14	事業名	小中学校就学援助事業	決算書 P. 293、P. 305
	担当部署	教育総務課 教育総務係	事業費 70,649,357 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	多様なニーズに対応した教育支援の充実

事業概要	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等の必要な支援を行うことにより、子どもに学びの機会等を十分に与え「貧困の連鎖」を防止する。
令和4年度 取組内容 (計画)	①要保護対象者（生活保護受給者）に「修学旅行費」を給付。（小学6年生及び中学2年生） ②準要保護対象者に、新入学用品費（新入学準備金）、学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費（小学6年生及び中学2年生）を給付。 ③全児童生徒へのチラシの配布、新入学オリエンテーションでの制度説明、広報よみたんや村ホームページへの掲載、SNSの活用により就学援助制度の周知を図り、支援を必要としている方々の申請に結びつける。
令和4年度 取組状況 (成果)	① 要保護対象者に修学旅行費の支給を行った。 対象者：7名（小学校：1名、中学校：6名） ② 準要保護対象者に学用品費や学校給食費等の支給を行った。 対象者：775名（小学校：512名、中学校：263名） ③ SNS等を活用したことにより、申請者が増えた。
自己評価	B 計画どおりの成果があった。 経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行うことにより、児童生徒に学びの機会等を与えることができた。
課題	周知徹底を行っているが、潜在的な貧困世帯が存在することが想定される。
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	全児童生徒へチラシと申請書を一緒に配布し、多くの保護者から申請してもらうようにする。

学識経験者からの意見	準要保護対象者に学用品費や学校給食費等の支給実績が、昨年度より44名増えている。そのことから新入学オリエンテーションでの制度説明・広報よみたんや村ホームページ、そしてSNSでの広報活動に功があったと思われる。教育は、その人を幸せにするために施されることから、本事業は、教育の均等を図ることのできる重要な事業であり、これまでの適切な事業運営に感謝である。
------------	--

15	事業名	小中学校特別支援補助事業	決算書 P. 293、P. 305
	担当部署	教育総務課 教育総務係	事業費 3,513,179 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	多様なニーズに対応した教育支援の充実

事業概要	村立小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的な負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を給付し、障がいの有無に関わらず、全ての子どもが安心して学んでいくことができる特別支援教育の振興を図る。		
令和４年度 取組内容 (計画)	特別支援教育就学奨励費対象者に、学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学用品費（小学１年生及び中学１年生）、修学旅行費（小学６年生及び中学２年生）、学校給食費を給付する。		
令和４年度 取組状況 (成果)	特別支援教育就学奨励費対象者に、上記の就学援助費の支給費目の単価の1/2の支給を行った。 対象者：95名（小学校：79名、中学校：16名）		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		学用品費や給食費等を支給することにより、特別支援学級に在籍する児童生徒保護者の経済的負担軽減を図り、特別支援教育の振興を図ることができた。	
課題	特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者が対象と限られていることから、就学援助のように全児童生徒向けの周知を行っていないため、申請していない保護者がいると思われる。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	学校事務と連携し、制度の周知と全児童生徒からの申請書の回収を行う。		

学識経験者からの意見	学校教育法施行令第22条の3（障がいの程度）に該当する子どもが、安心して学んでいくことができるよう支援するのが、特別支援教育就学奨励費である。 対象者 95 名（小学校：79 名、中学校：16 名）に適切に支援することができた点を評価する。
------------	---

16	事業名	特別支援教育支援員配置事業	決算書 P. 273
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 56,837,372 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げる「学び」の充実	多様なニーズに対応した教育支援の充実

事業概要	心身に障がいがあり、特別な支援を要する幼児児童生徒に対応した支援を行うことにより、学校生活や学習上の困難の改善を図り、全ての子どもが安心して学んでいく事ができる特別支援教育の振興に資するため、各幼稚園及び各小中学校に特別支援教育支援員等、学校指導課に特別支援教育専門員を配置し、対象幼児及び児童・生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図る。	
令和４年度 取組内容 (計画)	村立幼稚園及び小中学校へ特別支援教育支援員及び特別支援教育ヘルパーを配置し、学校指導課へ特別支援教育支援専門員を配置する。	
令和４年度 取組状況 (成果)	・各幼稚園、小中学校に特別支援教育支援員（19名）及び特別支援ヘルパー（14名）を配置。 ・学校指導課に特別支援教育支援専門員を配置（1名）。 ・村立小学校１校において、医療的ケア児対応の看護師を配置（1名）。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	特別支援教育支援員及び特別支援ヘルパーを配置し、対象幼児及び児童・生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図る支援を行うことができた。	
課題	・村立幼稚園１園において、年度途中で特別支援教育支援員の欠員が生じたが、後任を確保することができなかった。 ・安定的な人材の確保。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	・看護師、特別支援ヘルパーの処遇改善の検討を行う。 ・特別支援教育支援員について、多様な人材を確保することができるよう任用条件の拡充の検討を行う。	

学識経験者からの意見	特別支援教育の支援員及び特別支援ヘルパーを配置することにより、対象幼児・児童・生徒の学校生活や学習等の支援を適切に行うことができた。また、小学校に看護師を配置することにより、学校現場にとっては、医療的ケアのストレスが軽減される。対象児童の学校現場にとっては、心強く安心して教育活動ができたことと高く評価する。
------------	--

17	事業名	特別支援教育推進事業	決算書 P. 277
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 1,813,088 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	子どもの成長を促し可能性を広げ る「学び」の充実	多様なニーズに対応した教育支援 の充実

事業概要	特別な支援を要する幼児児童生徒の教育（就学）支援を行い、幼小中学校の特別支援教育に携わる教職員を対象に研修等を実施する。		
令和４年度 取組内容 （計画）	教育支援委員会（就学先審議）に向け心理検査の実施。就学先について保護者との面談。幼小中学校に巡回相談員の派遣。 教育支援委員会の運営に係る就学事務。		
令和４年度 取組状況 （成果）	教育支援委員会の開催 11 回、就学支援 118 名。 特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員の定例会（研修含）15 回、巡回相談 38 回、就学先に向けての保護者面談及び親子面談 29 件。 検査結果のフィードバック 60 件。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		教育支援に係る検査結果のフィードバックを、保護者及び学校へ実施することで子の理解や、支援の手立てになったと評価を得た。更に教育支援委員会において、事前親子面談を実施することで、より充実した教育支援委員会の運営を行うことができた。	
課 題		・教育支援委員への研修。 ・限られた時間内で就学支援業務をスムーズに実施するために、学校や関係機関との連携を行う。 ・学校指導課における特別支援教育担当と特別支援教育専門員の職員配置。 ・巡回相談員の安定的な人材確保。	
次年度以降の 取組内容 （課題対応）		検査実施及びフィードバックの実施について、検査員及び学校と連携し、実施計画の作成に努める。 関係機関と連携し、教育支援委員会への研修を実施する。	

学識経験者からの意見	本事業の取組みとして、教育支援委員会、特別支援教育コーディネーター、特別支援員の定例会や研修会等を開催し、教育支援の充実を図っている。さらに、保護者面談及び親子面談を 29 件も実施することにより、保護者と二人三脚で子どもへの教育支援の充実が図られたと評価する。今後は、研修会の内容等を精査し、さらに工夫することにより、特別支援教育に携わる教職員の指導技術の向上に期待する。
------------	---

2 生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展

1) 生涯学習の充実

18	事業名	生涯学習事務運営事業	決算書 P. 325
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 10,683,124 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	生涯学習庶務全般を構成する。主なものでは、学供施設 10 箇所の建物災害共済分担金及び消防設備等施設の修繕、社会教育関係団体の補助金及び負担金及び研修会負担金を交付する。		
令和 4 年度 取 組 内 容 (計 画)	・学供施設建物災害共済分担金及び消防設備点検後の施設修繕 ・社会教育関係団体補助金及び負担金 ・まちづくりワークショップ委託費 ・コミュニティ助成金		
令和 4 年度 取 組 状 況 (成 果)	・建物災害保険分担金 10 箇所 ・消防設備修繕 3 箇所 ・補助金 5 団体及び負担金 3 団体 ・まちづくりワークショップ小学校 5 校区、アンケート調査 ・都屋コミュニティ施設備品購入補助金		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		コロナ禍を経て、補助金団体の活動は工夫しながら実施している。コロナ前に戻す活動、もしくは、活動方法を再構築する等各団体は模索している中、支援を行った。	
課 題	小学校区のワークショップ及びアンケート等を含めたニーズ調査が完了した。この結果を生涯学習推進計画へ反映させる。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	上記ニーズ調査等を第 2 次読谷村生涯学習推進計画に盛り込み策定を行う。		

学識経験者からの意見	社会教育関係団体は、コロナ禍を経て工夫して活動を実施している状況にある。地域の活性化に大きな影響を与える社会教育関係団体の活動を注視し、今後とも補助金・負担金及び研修会負担金の交付を望む。コミュニティ助成金は地域の活性化が図れるので、継続して助成を望む。
------------	---

19	事業名	社会教育関係指導者育成事業	決算書 P. 329
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 161,025 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷 の地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	社会教育関係団体（青年会・婦人会・子ども会・PTA）及び読公連、社会教育委員が一同に会し研修会を行う。また、ジュニアリーダー研修会では、様々なプログラムを通して人材育成を行う。		
令和４年度 取組内容 （計画）	社会教育関係団体合同研修会 読谷村及び中頭地区ジュニアリーダー研修会の実施		
令和４年度 取組状況 （成果）	社会教育関係団体合同研修会　２回延べ４４名 読谷村ジュニアリーダー研修会　１３回延べ２１１名 中頭地区ジュニアリーダー宿泊研修　１回４名		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
	各々の研修が次につながる内容で終えられたことで、次年度も継続的に人材育成が行える。		
課題	団体の課題等は把握・共有できた中で、それぞれの課題を解決する為の具体的方法を実行できるよう取組む。		
次年度以降の 取組内容 （課題対応）	各々の団体も、人で繋がる仕組みを作り、人材育成が継続的に行える体制を維持する。課題を踏まえた具体策を生涯学習推進計画で位置づける。		

学識経験者からの意見	社会教育関係団体及び読公連、社会教育委員が一堂に会し研修会を行ったことは評価できる。リーダーが不足し、組織の継続が困難な状況にある団体もあるので、継続して社会教育関係団体合同研修、ジュニアリーダー研修の継続を望む。
------------	---

20	事業名	まなびフェスタ事業	決算書 P. 327
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 415,534 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	生涯学習に関わる活動を展開している各種団体・組織・部署の活動を集約し、広く村民へ活動を紹介することにより、村民の社会教育・生涯学習活動への参加促進を図り、ふれあい交流館及び自治公民館等で活動する		
令和４年度 取組内容 (計画)	28 項目の講座等開催した。主に、食育講演会、サークル発表、子ども体験、わくわくワーク（お仕事体験）、O I S T 科学工作講座、S D G S 体験、ボッチャ及びモルク体験、婦人会フリマ、活動展示等		
令和４年度 取組状況 (成果)	2 日間開催で 28 項目、延べ 3,314 名		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		昨年度はオンライン開催でしたが、今回は、対面開催を計画通りに行うことができた。	
課題	段階的にコロナ前に戻していこうという企画内容で飲食コーナーを提供することができず、食事時間の隙間時間があり、参加者も滞在時間をやりくりする難しさがあったと感じた。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	「学びの機会」にもなるまなびフェスタなので、多種多様な学びが行えるコーナー（飲食含む）を設定し、その運営にも多くの村民が関わり、参加する機会を創り出せるよう企画実施する。		

学識経験者からの意見	「学びの機会」にもなるまなびフェスタを、従来の対面開催を行い 28 項目の講座を計画通り開催できたことは評価できる。今後とも、多くの村民が関わり参加する機会を創り出すよう取り組みの充実を望む。
------------	--

21	事業名	ふれあい交流館自主事業	決算書 P. 343
	担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費 1,098,770 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の 地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	村民が、興味を持って取り組める講座や教室を開催し、閉講後も自主的に活動を継続できるような生涯学習のきっかけづくりを行う。 村民を対象とした講座を行うことにより、生涯学習の充実に繋げる。	
令和4年度 取組内容 (計画)	・ふれあい交流館自主事業として16の講座、教室を計画し、企画運営を行う。 ・自治公民館に委託して、自治公民館講座を開催する。	
令和4年度 取組状況 (成果)	ふれあい交流館自主事業は、新型コロナウイルスの影響により、夏休みの1事業は中止をしたが、他15の講座、教室は、感染対策を講じながら、開催することができ生涯学習の推進が図られた。 参加者：417名 自治会が企画運営する自治公民館講座を委託することで、集い学ぶ場としての自治公民館の活動支援が図られた。2自治会実施	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	1事業は、感染状況により、中止せざるを得なかったが、他講座、教室は、感染対策を講じて実施することができた。 多くの講座、教室を開催したことで、これまで同様に生涯学習の推進が図られた。	
課題	ニーズに沿った講座、教室の把握。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	「集い、学び、交流する」を事業基本とし、他市町村の講座実施状況の情報収集や世間で注目されている講座、教室情報を幅広く収集し、企画等を行う。	

学識経験者からの意見	コロナ感染対策を講じながら、15の講座・教室を開催した事は、生涯学習の推進が図られている。また、自治会が企画運営する自治公民館講座を委託することで、集い学ぶ場として自治公民館の活動支援できたことは評価できる。今後とも講座・教室の情報を幅広く収集し村民に提供してもらいたい。
------------	---

22	事業名	文化センター施設管理運営事業	決算書 P. 343
	担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費 49,355,600 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷 の地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	鳳ホールとふれあい交流館の複合施設である文化センターの施設運営を行う。		
令和4年度 取組内容 (計画)	文化センター施設管理 ・ 鳳ホール暗天幕、 Horizont 幕及び砂袋の更新工事 ・ 非常用発電機修繕他		
令和4年度 取組状況 (成果)	・ 経年劣化による設備を工事及び修繕をすることで、快適に利用しやすい施設環境を保持する事ができた。 ・ 鳳ホール：貸館日数 119 日、貸館件数 118 件、入場者数 25,723 名 ・ ふれあい交流館：貸館日数 308 日、貸館件数 1,829 件、来館者数 28,199 名		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
	保守点検により、指摘のあった個所については、修繕をして利用しやすい施設環境を保持する事ができた。		
課題	施設、設備の経年劣化が見られる箇所があるため、今後も施設修繕及び、施設備品の入れ替えを年次計画的に行う必要がある。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	本施設は、芸能、芸術文化活動等の成果を発表する場並びに、村民の学習の場、憩いの場、交流の場であり、いつでも、だれでも、気軽に利用できる施設としていることから、十分な管理を行い、安全で快適な環境の保持に努める。令和5年度においては、個別施設計画を策定する。		

学識経験者からの意見	文化センターは、芸能・芸術文化活動等の成果を発表する場で、多くの村内外からの利用者があるため、十分な管理を行い、安全で快適な環境保持が望まれる。文化センターは供用開始から 25 年以上も経過しており、経年劣化がみられる。保守点検により、指摘のあった個所を修繕して利用しやすい施設環境を保持できたことは評価できる。今後も年次計画的な施設修繕及び、施設備品の入れ替えを望む。
------------	---

23	事業名	鳳ホール事務運営事業	決算書 P. 347
	担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費 865,831 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の 地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	生涯学習の場としての文化センターを管理運営する。		
令和４年度 取組内容 (計画)	沖縄県公立文化施設協議会、全国公立文化施設協会へ負担金を拠出し、読谷村文化協会へ補助金を交付することで、文化活動支援を行う。		
令和４年度 取組状況 (成果)	以下の団体に負担金を拠出し、補助金を交付することにより、文化振興活動への支援を行った。 【負担金】 沖縄県公立文化施設協議会、全国公立文化施設協会 【補助金】 読谷村文化協会		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		沖縄県や全国の公立文化施設協会へ負担金を拠出することで、公立文化施設協会の普及発展に寄与した。 また、村文化協会へ補助金を交付し活動を支援することで、村文化協会活動の継承発展に寄与した。	
課題	文化協会への補助金交付について、文化振興の観点から、文化振興課と協議の上、見直す必要があると考える。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	文化協会への補助金交付について、文化振興の観点から、文化振興課と協議の上、今後の補助金交付の在り方について、協議調整を行う。		

学識経験者からの意見	文化協会の補助金については、地域伝統文化の継承、村民の文化意識の高揚の観点から、又、会活動の継承発展の為に必要と考える。
------------	--

24	事業名	大木地区学習等供用施設改修事業	決算書 P. 347
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 39,624,700 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	再編交付金は、基地の再編によって地域住民の安全が阻害される事を防ぐ目的から、施設機能を強化し地域住民が安心・快適に利用できるようにする。再編交付金を活用し、公民館を改修する事で地域住民の安全確保と地域活動の充実を図る。	
令和４年度 取組内容 (計画)	調理室等改修及び多目的室、倉庫棟の増築工事。	
令和４年度 取組状況 (成果)	実施３年目で大木自治会改修工事が完了した。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	工期内で工事が安全に完了した。自治会員からも改修後の利用の声も好評で、更なる自治会活動の充実につながった。	
課題	事業実施において、他課の応援が必要であること	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	自治会で引き続き備品購入計画を行い、実施する。	

学識経験者からの意見	再編交付金を活用し、3年をかけて大木自治会館の調理室等改修及び多目的室、倉庫棟の増築工事が完了した。改修後に利用した自治会員からの声も好評で、更なる自治会活動の充実につながったことは評価できる。
------------	---

25	事業名	図書館運営事業	決算書 P. 331
	担当部署	生涯学習課 図書館係	事業費 27,877,947 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の 地域文化の継承・創造・発展	生涯学習の充実

事業概要	図書館資料及びレファレンス機能を活用し、地域課題の解決に対応する情報を広く提供し、暮らしの中に役立つ情報センターとしての機能を有する地域支援型図書館として、村民サービスに寄与する。		
令和4年度 取組内容 (計画)	①図書館資料の貸出サービス、②予約、リクエスト、レファレンスサービス、③講座や主催事業の実施、④図書館見学、職場体験等の受入れ、⑤嘉手納町立図書館との相互利用の展開、⑥学習室等による学習の場の提供、⑦図書館ボランティア活動支援、⑧電子図書館サービス、⑨（仮称）読谷村総合情報センターへの移行に向けての調整・整備		
令和4年度 取組状況 (成果)	① 貸出件数（延べ95,877件）、②利用人数（延べ20,486名）、③予約・リクエスト（延べ2,274件）、④レファレンス（延べ3,340件）、⑤嘉手納町立図書館の相互利用人数・貸出件数（延べ4,790名・延べ24,566件）、⑥学習室利用（延べ2,886名）、⑦インターネット利用（延べ63名）、⑧AVブース利用（延べ122名）、⑨電子図書館の貸出冊数・利用人数（延べ1,186件・延べ302名） 電子図書館サービスを継続し、来館の困難な利用者へのサービスを行なった（電子書籍所蔵 1,525冊） 新型コロナウイルスの影響もあったが、感染症対策をとりながら定例行事を68回、主催事業を18回開催する事ができた。 （仮称）読谷村総合情報センターへ移管予定の郷土資料の確認・登録作業を継続して行っている。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		新型コロナウイルスの影響も少なからずあったが、感染症対策による休館はなく、コロナ禍以前の運営に戻すことができた。各主イベント等も感染症対策を行い、ほぼすべての事業を実施することができた。 （仮称）読谷村総合情報センターへの移行に向けた郷土資料の確認・登録作業、施設の基本設計に関する調整及び図書館サービスの運営についての調整を行った。	
課題	（仮称）読谷村総合情報センターへの移行に向けての調整・整備 電子図書館の利活用促進 書庫の収納スペース不足による閉架資料の分散保管（恒常的課題）		

次年度以降の 取組内容 (課題対応)	(仮称) 読谷村総合情報センターへの移行に向けて、引き続き調整を行う必要がある。(未登録資料(郷土資料)の整備、業務内容の引継調整 等) また、電子図書館の周知活動強化への取り組み、電子書籍蔵書の更新作業等による機能充実を図る。
--------------------------	--

学 識 経 験 者 か ら の 意 見	来館の困難な利用者への電子図書館サービスを継続し、コロナ感染対策をとりながら定例行事を 68 回、主催事業を 18 回開催したことは評価できる。地域課題の解決に対する情報を広く提供し、暮らしの中に役立つ情報センターとしての機能充実を望む。 (仮称) 読谷村総合情報センターへの移行に向けての調整・整備は万全を期してもらいたい。
---------------------------	---

2) 生涯スポーツの推進

26	事業名	各種スポーツ大会運営事業	決算書 P. 357
	担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費 356,322 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	スポーツの推進
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷 の地域文化の継承・創造・発展	生涯スポーツの推進

事業概要	全てのスポーツを行う村民を対象に、生涯にわたりスポーツに親しみ、体力の向上や健康増進を図ることを目的とする。
令和4年度 取組内容 (計画)	下記の大会を開催する。 ①教育長旗争奪県中学校ソフトボール大会 ②読谷けんこうまつり（古希・シニアソフトボール大会、体力テスト） ③新春トリムマラソン及び小学生駅伝大会 ④ビーチウォーキング大会
令和4年度 取組状況 (成果)	下記の大会を実施することができた。 ① 教育長旗争奪県中学校ソフトボール大会 男2女18チーム参加 ② 読谷けんこうまつり（古希・シニアソフトボール大会 5チーム参加、 体力テスト 34名参加） ③ 新春トリムマラソン及び小学生駅伝大会 延べ276名参加 ④ ビーチウォーキング大会 25名参加
自己評価	B 計画どおりの成果があった。 計画していた大会について新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施することができた。
課題	小学生駅伝大会の開催について、学校行事と重なり参加できなかった小学校があった。
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	日程を決める段階で、これまでに行っていた各競技の大会日程の確認だけでなく、各学校の行事日程も確認を行い、より多くの方に参加してもらえるように努めたい。

学識経験 者からの 意見	生涯にわたりスポーツに親しみ、体力の向上や健康増進を図ることを目的に、計画していた大会がコロナ感染対策を講じながら実施できたことは評価できる。ただ、参加できなかった学校があったのは残念である。行事日程を組むときは学校現場との調整はしっかりやってもらいたい。
--------------------	--

27	事業名	後援団体育成事業	決算書 P. 357
担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費	8,363,975 円
総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	スポーツの推進	
教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯スポーツの推進	

事業概要	各種団体に補助金等を支出し活動を支援することにより、団体の育成やスポーツ指導が充実し、青少年の健全育成、将来のスポーツ選手の育成につなげる。	
令和４年度 取組内容 (計画)	下記の団体に、負担金又は補助金を交付することにより、活動支援を行う。 【負担金】 中頭郡スポーツ協会、沖縄県スポーツ推進委員協議会、中頭地区スポーツ推進委員協議会、中頭地区社会体育研究協議会 【補助金】 読谷村体育協会、少年野球読谷支部、読谷村ソフトボール協会、読谷村ラグビー協会、読谷村サッカー協会	
令和４年度 取組状況 (成果)	各種団体の活動支援、青少年の健全育成、競技力向上、選手の育成などを支援することにつながった。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	コロナ禍ではあったが、各種団体が新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて工夫しながら大会等の実施等に取り組み、競技力向上、青少年の健全育成に寄与した。	
課題	補助金団体以外の種目のスポーツ団体についても協会設立に取り組みたいという個々の相談はあるが協会設立に至っていない。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	協会設立に向けて関心のあるスポーツ団体について、助言を行い、支援に取り組みたい。	

学識経験者からの意見	各種団体への負担金や補助金の交付は、活動支援、青少年の健全育成、競技力向上、選手育成などを支援することに繋がったことは評価できる。協会設立に取り組みたいというスポーツ団体については、協会設立に向けての指導助言を望む。
------------	--

28	事業名	体育施設運営事業	決算書 P. 369
	担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費 80,443,197 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	スポーツの推進
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯スポーツの推進

事業概要	全てのスポーツを行う方を対象に、競技スポーツ及び生涯スポーツの施設として、快適なスポーツ環境を継続して提供できるように維持管理を行う。	
令和４年度 取組内容 (計画)	施設の維持管理を適切に行い、有効に利用してもらう。 下記の主な体育施設について、計画値を設定する。 ① 読谷平和の森球場 182 件 ② 読谷村多目的広場 325 件 ③ 読谷村運動広場 189 件	
令和４年度 取組状況 (成果)	下記のとおり、体育施設を利用してもらうことができた。スポーツキャンプについても受入れを実施することができた。 ① 読谷平和の森球場 355 件 (17,148 名) ② 読谷村多目的広場 541 件 (25,673 名) ③ 読谷村運動広場 197 件 (25,127 名) ④ 読谷村テニスコート 149 件 (1,835 名) ⑤ 読谷村陸上競技場 168 件 (10,453 名) ⑥ 残波岬テニスコート 888 件 (5,623 名) ⑦ ZANPA プレミアム残波岬ボールパーク 86 件 (3,671 名) ⑧ 読谷村トレーニング室 10,110 件 (10,110 名) ⑨ ゆんたんざソフトボール場 109 件 (6,926 名) ⑩ 読谷村体育センター 0 件※コロナワクチン接種会場利用の為。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	読谷村体育センターについては、コロナワクチン接種会場であったため、貸出しを行えなかったが、それ以外については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて体育施設の貸し出しを行うことができた。	
課題	予約システムの導入ができておらず、窓口対応に時間を要している。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	デジタル社会推進課と連携して、予約システムの導入について調査研究を進め、実施に向けて取り組む。	

学識経験 者からの 意見	全ての体育施設を、スポーツを行う方に快適なスポーツ環境を継続して提供できるように維持管理を行ったことは評価できる。利用者の予約がスムーズに行えるように、予約システムの導入を望む。
-----------------------------	--

29	事業名	屋内運動場整備事業	決算書 P. 371
	担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費 21,537,866 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	スポーツの推進
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯スポーツの推進

事業概要	(仮称) 屋内運動場建設工事のための基本設計	
令和４年度 取組内容 (計画)	(仮称) 屋内運動場建設工事のための基本設計を実施する。	
令和４年度 取組状況 (成果)	(仮称) 屋内運動場建設工事のための基本設計を実施した。 (仮称) 読谷村運動場基本設計委託業務、(仮称) 読谷村屋内運動場土質調査委託業務を期間内に納めることができた。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	基本設計について、指名競争入札を実施した結果、当初想定していたよりも安価に契約することができたため、実施設計の段階で予定していた土質調査を令和４年度に前倒しで実施することができた。	
課題	基本設計だけでは絞り込めていない条件等について、実施設計時に詳細に検討を進める必要がある。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	まちづくり支援事業を活用して、計画的に(仮称) 屋内運動場が建設できるように実施設計を進めていく。	

学識経験者からの意見	(仮称) 読谷村屋内運動場基本設計委託業務、(仮称) 読谷村屋内運動場土質調査委託業務を期限内に終わっている。実施設計の段階で予定していた土質調査を令和4年度に前倒しで実施したことは評価できる。
------------	---

30	事業名	陸上競技場北側植栽整備事業	決算書 P. 373
	担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費 68,674,918 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	スポーツの推進
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	生涯スポーツの推進

事業概要	読谷村陸上競技場の北風対策としての植栽の整備工事		
令和４年度 取組内容 (計画)	読谷村陸上競技場の北風対策として植栽の整備工事を実施する。		
令和４年度 取組状況 (成果)	読谷村陸上競技場の北風対策として植栽の整備工事を実施した。 読谷村陸上競技場北側植栽整備工事現場技術業務、読谷村陸上競技場北側 植栽整備工事に取り組むことができた。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
	当初の予算計画にはなかった事業であったこともあり、年度内の工事完成 には至らなかったが、工事及び現場技術業務の発注を行い、完成に向けて 進めることができた。		
課題	当初の予算計画にはなかった事業であったため、令和４年度中に工事を完 成させることができなかった。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	明許繰越を行い、令和５年度での工事完成に取り組む。		

学識経験者からの意見	読谷村陸上競技場は、冬場になると強い北風が吹き、陸上競技場を利用する人にとっては使いづらいところがあったが、陸上競技場北側植栽整備事業のおかげでだいぶ北風の影響が緩和されるものと思われ評価する。
------------	---

3) 地域文化の継承・創造・発展

31	事業名	返還軍用地埋蔵文化財発掘調査事業	決算書 P.337
	担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費 18,382,195 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	返還軍用地等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書発刊のための資料整理を行う。また文化財を保存し、且つ、その活用を行うことで村民及び国民の文化財保護意識の向上を図る。	
令和４年度 取組内容 (計画)	①埋蔵文化財包蔵地の事前審査依頼に対する回答を行う。 ②開発調整のための試掘調査及び立会を行う。 ③比謝川・長田川流域グスク群の報告書発刊に向けて資料整理を行う。	
令和４年度 取組状況 (成果)	①埋蔵文化財包蔵地の事前審査依頼に対する回答を３２６件行った。 ②開発調整のための試掘調査を１回、トリイ通信施設等を含む立会を５回実施した。 ③令和３年度に実施した比謝川・長田川流域グスク群であるメーダグシク・ウフグシク発掘調査分の資料整理を行った。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
	埋蔵文化財包蔵地の事前審査依頼の提出により、文化財の保護を図り、試掘調査や立会を行うことで、文化財の不時発見や滅失を防ぐことができた。	
課題	比謝川・長田川流域グスク群のうち、大湾アガリヌウガン遺跡について、村文化財に指定し、自然・歴史両面から学ぶことができる遺跡公園として整備することで、遺跡の保護を図ることができる。そのための計画の策定が必要である。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	基本・実施設計を策定し、整備を進める。	

学識経験者からの意見	返還軍用地等における埋蔵文化財包蔵地の事前審査依頼の提出により、文化財の保護を図り、試掘調査や立ち合いを行うことで、文化財の不時発見や滅失を防ぐことができたことは評価できる。
------------	---

32	事業名	博物館管理運営事業	決算書 P. 351
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	37,198,355 円
総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展	
教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展	

事業概要	歴史・文化資源を保全し、地域文化や生涯学習・社会教育、地域振興の中核的拠点として博物館運営の向上に資する。 資料収集・整理・記録・保存・活用といった博物館機能のみならず、座喜味城跡のデジタルセンター的な役割もあることから、国内外からの来館者が快適に利用できるよう、適切な施設運営、保守管理を行う。		
令和4年度 取組内容 (計画)	・受付係、7時間勤務3名、4時間勤務2名の体制でシフトを組み対応。 ・施設の維持管理を専門業者へ委託。		
令和4年度 取組状況 (成果)	施設の機械警備、浄化槽清掃・検査、燻蒸処理、電気保安管理、エレベーター保守管理、防火設備定期検査、消防用設備等管理などの委託を計画的に行い、来訪者の利便性の向上、安全確保につとめた。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		施設の維持管理を適切に行い、利用者の利便性の向上につなげることができた。	
課題	施設の設置場所は湿度が高く、ヤスデ等の害虫が多い環境であるため、展示品や収蔵品、貴重な書籍等を適切に保存管理する必要がある。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	資料の保存管理を行う上で適切な温湿度管理に務め、後世へと継承できる環境を整備していく。また、害虫対策についても館出入口などにおいて、侵入対策や発生状況に応じて薬剤等を使用するなどの対策を講じていく。 施設の管理を適切に行う事で施設の長寿命化につながり、また、利用しやすい環境を整えることで来訪者の増にもつなげる。		

学識経験者からの意見	歴史・文化資源を保全し、地域文化や生涯学習・社会教育、地域振興の中核拠点として博物館運営の向上に資するため、施設の維持管理を適切に行い、来訪者の利便性の向上、安全確保につとめたことは評価できる。今後とも、貴重な資料が適切に保存管理できることを望む。
------------	--

33	事業名	子ども文化育成事業	決算書 P. 345
	担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費 1,624,000 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷 の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	児童生徒の伝統芸能への理解、関心を高めるため、赤犬子子ども三線・箏・太鼓クラブの開催。小学校の文化的クラブ（三線・箏・茶道・琉舞）活動への講師派遣等を行う。		
令和4年度 取組内容 (計画)	小中学生を対象とした赤犬子子どもクラブ（三線・箏・太鼓）の稽古を5月から3月の間、毎週土曜日の午前中に行う。 また、村内小学校のクラブ活動の支援として、講師の派遣を行う。指導は村内古典音楽組織の講師に依頼。		
令和4年度 取組状況 (成果)	全38回開催で申込者数は、183名で前年度より9名増。 延べ参加数4,174名で、内訳は三線延べ2,901名、箏延べ769名、太鼓延べ504名 小学校への講師派遣5小学校へ参加数延べ588名で、内訳は渡慶次小が三線4回40名、茶道5回60名、琉舞4回40名、読谷小が三線5回120名、喜名小が三線6回84名、古堅小が三線4回68名、茶道5回50名、古堅南小が三線6回66名、箏6回60名。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
	赤犬子子どもクラブ及び学校クラブ派遣の講師調整、事務調整は、予定通り行い、事業実施することができた。		
課題	長期開催の事業であるため、子ども達のやる気等を持続させることが最大の課題である。また、低学年が多い三線クラスは、講師と調整協力して、指導方法を検討する必要がある。		
次年度以降の 取組内容（課題 対応）	読谷まつりや文化祭への出演を目標に、講師と調整協力して、児童生徒が安心して練習に取り組めるよう環境・体制を整え、伝統芸能の継承を図る。		

学識経験者からの 意見	児童生徒の伝統芸能への理解、関心を高めることを目的として、赤犬子子どもクラブの開催、小学校の文化的クラブへの講師派遣事業を行い、予定通り実施出来たことは評価する。長期間の事業であるために、子供たちのやる気等を持続するための策が必要と思われるので、講師と調整し、対応策の検討を望む。
----------------	--

34	事業名	沖縄語保存継承事業	決算書 P. 355
	担当部署	文化振興課 村史編集係	事業費 5,781,260 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	現在では、日常生活で会話することも少なくなった沖縄語(しまくとうば)の保存継承に寄与するため、身近な生活の中で語られてきた沖縄語をわかりやすく学び、親しむためのデータベースを拡充し、普及活動(展示・講座)を実施する。	
令和4年度 取組内容 (計画)	これまでに収集、整理した民話や民俗に関する資料を活用し、ホームページで公開している辞書機能と音声データを更に充実させるほか、沖縄語に親しむための普及講座や展示を開催する。	
令和4年度 取組状況 (成果)	単語データベースを精査し約7,000件の修正、追記を行った。 ホームページで公開する「読谷村しまくとうば単語帳」を拡充した(単語約300語、音声1,000件、画像約400点追加)。 22回の講座を実施し、総計743名が参加した。しまくとうばの日にあわせた企画展を開催した(会期9/1～27、入場者数1,216名)。開催した講座や展示を周知する動画を5本Web配信した。	
自己評価	A	計画を上回る成果があった。
	ホームページ「読谷村しまくとうば単語帳」公開、拡充によりホームページアクセス数が劇的に増加、前年度5,646件を大きく上回る50,665件となり、多大な普及効果が得られた。 講座や展示会に大勢の村民が参加し、講座では高い満足度(82%)を得たほか、村広報誌での沖縄語に関する隔月連載記事でも好評価を得た。	
課題	ホームページ上のコンテンツ拡充により利用者が増加する一方で、書籍発刊の要望や記録、資料保存の観点からも書籍発刊の必要がある。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	書籍(単語帳を発展させた辞書)発刊に向けて取り組む。 講座受講年代は小学生が65%を占めているが、さらに幅広い世代や講座未実施の地域への働きかけを行う。	

学識経験者からの意見	ホームページで「読谷村しまくとぅば単語帳」を公開、拡充し、講座や展示会を開催したことにより、多大な普及効果が得られ「しまくとぅば」の保存・継承に寄与しているものと評価される。「しまくとぅば」はデータベースの拡充も大事だが、実際にしまくとぅばを使う講座を継続して開催することを望む。
------------	--

35	事業名	鳳ホール自主事業	決算書 P. 347
	担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費 7,075,818 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷 の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	鳳ホールを中心に自主事業である「民俗芸能祭」「創作子どもミュージカル」や文化事業等の誘致を行うことにより、優れた芸術を村民が鑑賞する機会を作る。また、各地域に伝わる伝統芸能等の保存・継承に努める。		
令和4年度 取組内容 (計画)	「創作子どもミュージカルワークショップ」を実施する。 10月に「第11回読谷村民俗芸能祭」を実施する。 地域伝統芸能等映像保存事業を実施する。		
令和4年度 取組状況 (成果)	翌年開催の子どもミュージカルを目標にワークショップを開催した。実施回数：6回 参加人数：35名 地域に継承される伝統芸能を披露する場として、ふれあい広場屋外特設ステージにて民俗芸能祭を開催した。子ども4団体、大人5団体が出演し読谷村の伝統芸能を披露した。 地域伝統芸能等映像保存事業として、瀬名波の伝統芸能である「真福地のはいちゃう」「しゅんどう」の映像を記録保存した。		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		ミュージカルに向けたワークショップを行い、歌や音楽・ダンスを通して、自己を表現する楽しさを学ぶことができた。 村民芸能祭を開催する事で、地域に継承される伝統芸能を披露することができた。 瀬名波の伝統芸能である「真福地のはいちゃう」「しゅんどう」の映像を記録保存したことで、伝統芸能の継承に寄与した。	
課題	昨今、子どもミュージカルへの応募者が少ないことから、改めて、普及啓発が必要である。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	募集の際、小学校3年生から中学3年生までの全員にチラシ配布をするなど、ワークショップ参加者へも声掛けを行う。 ミュージカル開催に向けては、異年齢の児童・生徒が協力し共に高め合いながら鳳ホールの舞台での成果発表を目指す。		

学識経験者からの意見	「読谷村民俗芸能祭」は各字の地域伝統芸能を披露する場として開催されている。地域の伝統芸能の保存・継承が難しくなっている現状を鑑み、地域の伝統芸能を発表する場を提供することにより、伝統芸能の保存・継承に寄与したことは評価できる。地域伝統芸能等映像記録保存事業は、地域の伝統芸能の型が崩れている状況があり、映像で記録保存することにより、本来の伝統芸能が
------------	--

	保存・継承できる。
--	-----------

36	事業名	歴史資料整理活用事業	決算書 P. 339
	担当部署	文化振興課 村史編集係	事業費 884,995 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	沖縄や本村に特徴的な歴史を後世に継承していくため、これら種々の歴史資料や歴史公文書等を順次調査し、整理・保存・公開を行う。
令和4年度 取組内容 (計画)	村史編集室が所蔵する歴史資料のうち優先度の高い貴重な歴史公文書等より整理、目録化を実施し、次年度以降貴重資料のデジタル化及び公開を目指す。
令和4年度 取組状況 (成果)	元読谷村長から寄贈された資料群（主には1950～70年代資料、文書、日誌、図書等）を整理、目録化した。資料群の整理状況は、簿冊数530点、デジタル化する資料数約27,000枚（スキャン枚数）。 令和5年度ホームページ公開に向け、これまで発刊された村広報誌の目録化データを確認した。
自己評価	B 計画どおりの成果があった。 デジタル化に向けた歴史資料の整理、目録化を一部完了した。整理作業により戦後読谷村の歴史に関わる多くの資料を把握することができた。
課題	資料数が膨大なため、効率的な作業方法、順序の検討 著作権や個人情報に配慮した資料公開の手法検討
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	資料の評価選別を行い、特に貴重な資料はデジタル化し、資料原本は保存に適した状態に整理する。 1950年代より発行の村広報誌データベースをホームページにて公開する。 公開した資料は、村広報誌などを活用し周知する。

学識経験者からの意見	村史編集室が所蔵する歴史資料のうち優先度の高い貴重な歴史公文書等をデジタル化に向けた歴史資料の整理、目録化を一部完了した。整理作業により戦後読谷村の歴史に関わる多くの資料を把握できたのは評価できる。今後とも効率的な作業方法、順序の検討を行い、デジタル化を望む。
------------	--

37	事業名	博物館展示事業	決算書 P. 349
	担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費 1,830,529 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	文化活動及び生涯学習に関する展示の充実を図り、地域文化・芸術の振興を目的とする。来訪者の歴史・文化・芸術・自然に対する関心と理解を深め、生活文化の向上をめざす。読谷村への認識を高め、「文化村」読谷村をアピールし、地域の文化振興に寄与する事で、村民（児童生徒）に誇りと自信を与え、創作意欲の向上を図る。		
令和４年度 取組内容 (計画)	①ユンタンザミュージアム常設展示の管理・展示替え ②ユンタンザミュージアム企画展の企画・運営		
令和４年度 取組状況 (成果)	企画展「日本復帰 50 周年企画展」2,937 名 「宮城明展～表皮一体の探究～」3,699 名 「2023 読谷やちむん展」3,170 名 「令和４年度読谷児童生徒作品展」2,581 名 「第 38 回アンデパンダン展」1,456 名 共催 「ひめゆりとハワイ in 読谷」3,668 名 「沖縄空手の伝播」3,413 名		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		開催時のアンケートで「とても良かった」「よかった」との回答が 98%あり、読谷村の歴史・文化・自然の魅力を多くの人に伝えることができた。	
課題	アンケート等で広報不足の指摘や、座喜味城跡見学のついでに来館したという回答もある事から、多くの方へ周知し、来訪していただける工夫が必要である。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	広報について、広報誌やホームページでの広報、SNS 発信、チラシの配布等に加え、FM放送を活用するなど広報手段を多角的に展開することで周知を図り、より多くの方に読谷村の魅力を伝える。		

学識経験者からの意見	文化活動及び生涯学習に関する展示の充実を図り、地域文化・芸術の振興を図る目的で、各企画展ともほぼ計画実施されている。開催時のアンケートで「とても良かった」「よかった」との回答が98%あり、文化・芸術の振興に寄与し評価できる。広報活動も多くの方々に周知できるよ
------------	---

	う工夫をし、今後とも読谷村の歴史・文化・自然の魅力を伝えることができるよう継続的な展示・企画展の取り組みを望む。
--	---

38	事業名	博物館教育普及事業	決算書 P. 349
	担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費 9,955,463 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	村民に読谷村の歴史・文化・芸術・自然を理解してもらい、村民としてのアイデンティティを確立してもらうことによって、これからの村づくりに寄与する人材を育成する。また、村外の方には読谷村の魅力を紹介し、読谷村の理解者になっていただくことを目的とする。	
令和４年度 取組内容 (計画)	①講座の企画・運営 ②年報・紀要の発刊 ③実習生の受け入れ ④ミュージアム運営委員会の開催	
令和４年度 取組状況 (成果)	座喜味城跡周辺の自然環境調査（地質・植物・動物）を行った。 中学生ガラス工芸体験（９名）、地質学講座（４名）、野鳥観察会（１１名） 未就学児向けワークショップ「手づくり絵の具でおぼけを描こう！」 （２２名）を開催。 「令和３年度年報」、「紀要４５号」を発刊。 高校生インターンシップ生（３名）受入。 ミュージアム運営協議会を１０月に開催。	
自己評価	B	計画どおりの成果があった。
		自然環境調査員として各分野での専門家に調査を依頼。調査には担当職員も同行し、座喜味城跡周辺の自然環境下内で貴重な植物が生育し、野鳥が抱卵、巣立することも確認できた。また、読谷村は国頭と島尻の土壌の境界であり、沖縄島全体の中でも特異な地質が観察できることが分かった。
課題	自然調査に遅延が生じたため、講座の開催回数目標値に達することができなかった。また、講座参加者が昨年に比べて減ったため、募集方法を検討する必要がある。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	調査員との調整を密にして計画的に調査や講座を行っていく。	

学 識 経 験 者 か ら の 意 見	座喜味城跡周辺の自然環境下内の調査により、貴重な生物が生育し、野鳥が抱卵、巣立ちすることも確認できたことは成果があったと認められ評価する。講座参加者が昨年に比べて減っている状況があるので募集方法の検討を望む。
------------------------------	--

39	事業名	ユンタンザミュージアム南側駐車場整備事業	決算書 P. 355
	担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費 23,559,412 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展
	教育振興計画基本目標及び施策名	生涯を通した学びの循環と読谷の地域文化の継承・創造・発展	地域文化の継承・創造・発展

事業概要	世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム、座喜味城跡周辺の自然や歴史・文化資源を一層活用できるよう、来訪者の利便性を確保するために駐車場及びトイレ等付帯施設を整備し、観光地としての魅力をアップする。
令和4年度取組内容(計画)	世界遺産座喜味城跡及び世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアムへの来訪者のための駐車場整備、トイレ等の付帯設備の工事を行う。
令和4年度取組状況(成果)	令和4年度の施工中に地中から産業廃棄物が出土したことから、当初設計のままの施工が困難となり工事契約を解除し、設計の見直しを行った。
自己評価	C 計画どおり実施したが、計画どおりの成果には至らなかった。 廃棄物の出土で本年度の工事契約は解除となったが、早急に調査し設計の見直しを行うことができた。
課題	駐車場整備を進めるとともに、世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム及び座喜味城跡をこれまで以上に利活用できるような施設周知と誘客につながる取り組みが必要である。
次年度以降の取組内容(課題対応)	修学旅行フェアやお城フェスティバル等への参加、SNSの活用をとおりして座喜味城跡並びに世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアムの魅力を発信し、来場者増に努める。

学識経験者からの意見	ユンタンザミュージアム南側駐車場整備が施工中、地中から産業廃棄物が出土したことは残念である。しかしながら早急に調査し設計の見直しを行っている。来訪者の利便性を確保するためにも早急に駐車場及びトイレ等付帯設備の整備を望む。
------------	--

3 地域との連携による教育環境づくり

1) 健全な青少年の育成

40	事業名	地域学校協働活動推進事業	決算書 P. 323
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 484,973 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	健全な青少年の育成

事業概要	地域学校協働活動本部の設置（2 中学校区）を行い、地域学校協働活動推進員 2 名を配置する。各種ボランティアの派遣実施、地域学校協働活動支援ボランティア養成講座を開催や人材の確保、学校支援ボランティアを学校の要望に応じてコーディネートする。
令和 4 年度 取組内容 (計画)	・学校支援ボランティア募集及び登録 ・地域学校協働活動推進員の配置 ・地域学校協働活動支援ボランティア活動 ・ボランティア養成講座の実施
令和 4 年度 取組状況 (成果)	・学校支援ボランティア新規登録 25 名 延べ 147 名 ・コーディネーター（地域協働活動推進員） 2 名 ・ボランティア活動 253 回 延べ 669 名 ・ボランティア養成講座 全 4 回 延べ 41 名
自己評価	B 計画どおりの成果があった。 学校教育活動支援に多くの村民が参画し、学校側の要望に多くの登録ボランティアが対応した。
課題	学習支援ボランティア活動を学校と調整し、方法を確立していく。
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	学習ボランティアは、ポイント制の構築と有償ボランティア実施に向けた検討を行い、村内人材の確保及び登録を行い活動の充実を目指す。

学識経験者からの意見	学校教育活動支援に多くの村民が参画し、学校側の要望に多くの登録ボランティアが対応できたのは評価できる。今後とも学校の要望に応じてボランティアを適時派遣できるように、養成講座を継続して取り組むよう要望する。
------------	--

41	事業名	放課後子ども教室推進事業	決算書 P. 323
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 5,313,021 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	健全な青少年の育成

事業概要	放課後の居場所づくりは、地域の自治会等を活用し、子ども達の自由で安心安全な居場所を提供するもので、異年齢交流や地域の大人との触れ合いを通した「学び・育ち合い」の環境を地域で拠点づくりを行う。
令和4年度 取組内容 (計画)	参加希望者を募り、村内9か所（横田、喜名、波平、長浜、大添、楚辺、大木、伊良皆、比謝）でコーディネーター及び安全見守り隊を配置し実施する。
令和4年度 取組状況 (成果)	実施回数 568 回 延べ 4,248 名、児童の登録者数 169 名 コーディネーター 7 名 安全見守り隊登録 46 名
自己評価	B 計画どおりの成果があった。 自治会やスタッフの皆さんと連携を図り安全に実施し、遊びや学習を通した「学び・育ち合い」が行われ、子どもの成長に貢献できた。
課題	各わんぱく広場の特色を活かした活動が展開されている。活動内容や実施方法等の情報交換をスタッフでこまめに行い、広場の環境を整えていくようにスタッフとの更なる連携を行う。
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	事業に関わるスタッフの研修企画実施を行い、スタッフが指導者としての意識を高め、安全確保や子ども一人ひとりの育ちを応援できる体制をつくる。

学識経験者からの意見	放課後の居場所づくりは、地域の自治会館等を活用し、多くの子供たちに安心安全な場所を提供し、「学び・育ち合い」の環境拠点づくりする事業である。自治会やスタッフの皆さんと連携を図り安全に実施し、遊びや学習を通した「学び・育ち合い」が行われ、子供の成長に貢献できたことは評価できる。わんぱく広場は今後とも、活動内容や実施方法等の情報交換をスタッフでこまめに行い、広場の環境を整えていくよう要望する。
------------	--

42	事業名	村子ども会交流事業	決算書 P. 331
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 7,000 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	健全な青少年の育成

事業概要	歴史や文化、生活環境の異なる地域との様々な交流を通して、他者理解やコミュニケーション能力の向上を図り、未来の担い手育成を行う為に県外の子ども会育成連絡協議会との相互交流を行う	
令和４年度 取組内容 (計画)	岐阜県白川村子ども会育成協議会との交流が終了となったことにあわせ、次の交流先を選定する。	
令和４年度 取組状況 (成果)	県外子ども会（教育委員会）へ交流先へのアプローチを図り、情報収集を行った。その間、暫定的に県内交流として、読子連と共催による「伊江島民泊交流」を実施した。	
自己評価	C	計画通りに実施したが、計画どおりの成果には至らなかった。
		いくつかの県外交流先へ電話及びメールで情報収集及び意見交換を行ったが、決定には至らなかった。
課題	交流先を決定し、交流事業を再開する。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	令和５年度中に交流先を決定することを目標設定し、読子連と連携して作業を行う。その間も、暫定的方法として、イン・ジュニアリーダー研修会を読子連と共催で人材育成を行う。	

学識経験者からの意見	歴史や文化、生活環境の異なる地域との様々な交流を通して、他者理解やコミュニケーション能力の向上を図り、未来の担い手育成を行う為の子ども交流事業は、早急に情報収集や意見交換を行い、交流先を決定し、交流事業の再開を望む。
------------	--

43	事業名	青少年センター事務運営事業	決算書 P. 323
	担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費 10,382,173 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	健全な青少年の育成

事業概要	青少年センターでの教育相談や不登校、適応障害の児童生徒の登校支援や学習支援、各学校へ心の教育相談員の配置を行う。		
令和4年度 取組内容 (計画)	青少年センターでの面談、電話相談 S S Wによる学校、関係機関との連携や情報交換 心理カウンセラーによる学校での講話や関係機関との連携		
令和4年度 取組状況 (成果)	青少年センター相談員（7名） ・所長兼相談員1名、S S W（スクールソーシャルワーカー）1名、心の教室相談員（7校）5名 ※5小学校のうち2校に週1回（2名）、1小学校とセンター兼務1名、2中学校に週3回（2名）、 ・心理カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）（1名）週1回 青少年センター相談件数 延べ799件、S S W対応件数 延べ191件 心理カウンセラー相談件数 延べ145件（実人数86名） ・心の教室相談件数（延べ）（学校別） 渡慶次小学校 283件、読谷小学校 329件、喜名小学校 244件、古堅小学校 313件、古堅南小学校 509件、読谷中学校 240件、古堅中学校 264件		
自己評価	B	計画どおりの成果があった。	
		・通所児童生徒について、ふりかえり用紙を活用し「学習課題」「話タイム」「学習の時間」を明記することで自主的な学習の支援に繋げることができた。 ・心理カウンセラーの面談件数が増加し、より専門的な支援を行うことができた。 ・小学校の心の教室相談員の勤務の見直しを図り、週1回から週2回に変更することで、教育相談担当教諭や学級担任との連携を深めることができた。	
課題		・センター通所が困難な家庭への対応（送迎等） ・学校指導課に村雇用のS S Wの配置 ・各小学校への心の教室相談員の1人配置について	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)		・各学校での心の相談員の活用のあり方	

学識経験者からの意見	本事業において、青少年センター相談員の相談件数、心理カウンセラー相談件数、SSW 対応相談件数、心の教室相談件数が、これまでに比べて数が増えている。それだけ青少年センターの役割が重要になってきていることの証である。 青少年センターに係る職員は、日々の業務に誠心誠意取り組み、がんばってきた。青少年センター相談員の人数を増やす必要が出てきたのではと思う。特に心の悩みを早期解決するために、各小学校への「心の教室相談員」の 1 名配置への努力をお願いしたい。
-------------------	---

2) 地域とともにある信頼される学校づくりの推進

44	事業名	小学校校舎等維持補修事業	決算書 P. 281
	担当部署	教育総務課 施設係	事業費 5,557,743 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	地域とともにある信頼される学校づくりの推進

事業概要	喜名小学校の空調設備は、令和4年度時点、23年が経過し、老朽化等を原因とした機能が著しく低下していることから、機能復旧を行い教室内環境の正常化を図る。		
令和4年度 取組内容 (計画)	空調機器機能復旧のための設計委託業務を行う。		
令和4年度 取組状況 (成果)	喜名小学校防音機器復旧実施設計委託業務を行うことで、工事発注に必要な図面作成を行い、既存の個別空調、全熱交換機、単一ダクト空調の機器選定と工事費の算出を行えることが出来た。		
自己評価	B	計画通りの成果があった。	
	履行期間内に設計図書の完成が行えたことで、工事発注への準備を整えることで出来た。		
課題	適正な事業スケジュールの管理及び事業費抑制が課題である。 村内5小学校施設における長寿命化やこれに関連する定期的整備スケジュールの検討が必要である。		
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	作業期間が11月以降から開始となることから、補助事業先の沖縄防衛局と設計調整を行い、早期の補助決定に向けて取組む。		

学識経験者からの意見	本事業は、喜名小学校の空調機器機能復旧のための設計委託業務を行うことである。履行期間内に設計図書を完成させ、工事発注への準備を終えたことを評価する。昨今の夏場の気候は、暑くてクーラー無しでは、熱中症になりうる危険性がある。一日も早く、快適な教育環境になれるように整備をお願いしたい。
------------	---

45	事業名	古堅南小学校校舎新增改築事業		決算書 P. 299
	担当部署	教育総務課 施設係	事業費	1,608,042,409 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実	
	教育振興計画基本目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	地域とともにある信頼される学校づくりの推進	

事業概要	古堅南小学校は竣工（1979 年）から築 43 年以上が経過しており、老朽化及び将来児童増加による教室不足解消のため改築を行う。	
令和 4 年度 取 組 内 容 (計 画)	古堅南小学校校舎改築事業推進のため、主に校舎解体工事、校舎新增改築工事を含む 10 の業務を計画している。	
令和 4 年度 取 組 状 況 (成 果)	令和 4 年度に校舎解体工事、校舎新增改築工事等を発注したことにより事業進捗率が約 93%となった。	
自己評価	B	計画通りの成果があった。
	校舎解体工事を計画通り終えたことで、校舎新增改築工事も計画通り進めることが出来た。	
課 題	適正な事業スケジュールの管理及び事業費抑制が課題である。また、学校側及び関係機関との細かな調整や連携が必要である。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	文部科学省及び沖縄防衛局、関係機関と調整を行いながら事業スケジュールに遅れが生じないように対応を行う。また、防衛事業の工事発注も適切に執行するように行う。	

学識経験者からの意見	古堅南小学校校舎改築事業が目に見えて動き出し、児童・保護者・教職員・地域の皆さんが、喜びと大きな関心を持って見守っている。本年度は、校舎の解体工事を計画的に終えて、校舎新增改築工事へ順調に工事が進んでいる。そのことについて大いに評価する。児童や教職員、さらに保護者・地域の皆さんが、首を長くして新校舎の完成を待っている。安全に工事を進め、立派な新校舎ができることを願う。
------------	---

46	事業名	読谷中学校校舎新增改築事業	決算書 P. 309
	担当部署	教育総務課 施設係	事業費 44,555,107 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実
	教育振興計画基本 目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	地域とともにある信頼される学校づくりの推進

事業概要	読谷中学校には令和4年度時点、普通教室24室、特別支援教室4室の教室があるが、令和5年度には教室不足が見込まれるため、教室の増築及び改修を行う。	
令和4年度 取組内容 (計画)	教室不足解消に向け、教室の増築及び既存教室の改修を行う。	
令和4年度 取組状況 (成果)	読谷中学校校舎改修工事で、校舎3階ベランダに普通教室1室と特別支援教室2室（1教室をパーテーションで分離）を配置した。また、隣接教室を普通教室に改修したことで、教室不足の解消も行うことができた。	
自己評価	B	計画通りの成果があった。
	履行期間内に計画通り工事も終え、教室不足の解消も図れた。	
課題	適正な事業スケジュールの管理及び事業費抑制が課題である。また、武道場天井が特定天井（脱落によって重大な危害を生ずるおそれがある天井）のため、落下防止措置の検討も必要である。	
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	読谷中学校は災害時の避難所としても指定されていることから特定天井については早期に取り組む必要があるため、沖縄防衛局と設計書の調整を行い、補助決定に向けて取り組む。	

学識経験者からの 意見	読谷中学校は、令和5年度に教室不足が見込まれることから、不足分の教室を確保するために工事を行い、普通教室1室、特別支援教室2室を新たに確保した。履行期間内に無事、工事を終え、不足分の教室を確保できた。 「より良い教育をするには、環境も大事」という。ましては、日々、教育を受ける教室は、最も大事である。早めにより良い教育環境を整えたことを評価する。
----------------	--

3) 新しい時代を展望した教育行政の充実

47	事業名	家庭教育相談支援事業	決算書 P. 325
	担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費 812,514 円
	総合計画施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実
	教育振興計画基本目標及び施策名	地域との連携による教育環境づくり	新しい時代を展望した教育行政の充実

事業概要	気軽に子育ての相談を行える環境をつくり、適切な相談機関へつなぐ仕組みをつくり、孤立しない子育て環境や仲間づくりを行う
令和4年度 取組内容 (計画)	・子育てまーる リサイクル会とミニ講座を月1回実施 ・子育て応援講座及びお父さんの子育て講座 ・支援チームの学習会及びスキルアップ講座の開催
令和4年度 取組状況 (成果)	・子育てまーるリサイクル 13回延べ519名、ミニ講座 12回延べ381名 ・子育て応援講座 3回延べ36名、お父さんの子育て講座 3回延べ45名 ・支援チーム会議 12回延べ85名、スキルアップ講座 3回延べ23名 ・子育て相談 3回延べ3名
自己評価	B 計画どおりの成果があった。 家庭教育の充実及び支援事業として、様々な工夫を行い村民が参加しやすい環境をつくることができた。子育て支援センターやつどいの広場、こども未来課及び健康推進課、図書館係との連携を図り事業をより多くの村民へ周知することができた。
課題	支援チームメンバーが相談のつなぎ方をどのように行うか、相談を通して手法を学び身に付けていくことを繰り返し行う。
次年度以降の 取組内容 (課題対応)	子育て世代包括支援実務者会議を通して、関係課との連携を深める。情報発信を工夫し適宜行い、村民への広報を行う。

学識経験者からの意見	計画された事業の取り組みが計画通り実施されている。家庭教育の充実及び支援事業として、様々な工夫を行い村民が参加しやすい環境をつくることができ、又、関係機関、関係各課との連携を図り、事業をより多くの村民に周知することができたことは評価できる。
------------	--